

§ 5 直線と円の方程式

5.1 直線の方程式位置

直線の方程式とは？

既に、皆さんは直線の方程式が

$$\text{[直線の方程式]} \quad y = mx + n$$

により表されることを知っています。

今回は、直線の方程式を、次の形で表現します。

$$\text{[直線の方程式]} \quad ax + by + c = 0$$

$$\text{実際} \quad ax + by + c = 0 \Rightarrow by = -ax - c$$

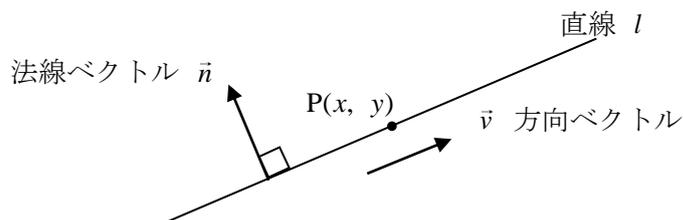
$$\therefore y = -\frac{a}{b}x - \frac{c}{b} = mx + n \quad \left(m = -\frac{a}{b}, n = -\frac{c}{b} \right)$$

と変形できますね。

5.2 方向ベクトルと法線ベクトル

方向ベクトルとは、法線ベクトルとは？

直線 l に平行なベクトルを、**方向ベクトル**[記号： \vec{v}]といい、
垂直なベクトルを、**法線ベクトル**[記号： \vec{n}]という。



直線 l 上の任意の点 $P(x, y)$ として、直線の方程式の公式を導きます。

※定点とは、指定されて自由に選択できない点。

任意の点とは、特に指定がなく自由に選択できる点。

よって、直線上の任意の点とは、直線上であればどの点でもよいということになります。

[直線の方程式]

(1) 点 $A(a_1, a_2)$ を通り, 方向ベクトル $\vec{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$ の直線

$$\frac{x-a_1}{v_1} = \frac{y-a_2}{v_2}$$

(2) 点 $A(a_1, a_2)$ を通り, 法線ベクトル $\vec{n} = \begin{pmatrix} n_1 \\ n_2 \end{pmatrix}$ の直線

$$n_1(x-a_1) + n_2(y-a_2) = 0$$

証明) 各点の位置ベクトルは, 小文字で表す。

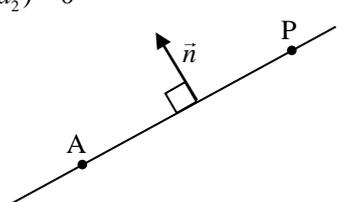
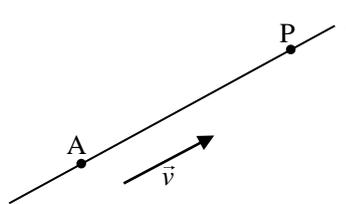
(1) 求める直線上の任意の点を $P(x, y)$ とすると平行条件より $\overrightarrow{AP} // \vec{v} \Rightarrow \overrightarrow{AP} = k\vec{v}$ また $\overrightarrow{AP} = \vec{p} - \vec{a} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x-a_1 \\ y-a_2 \end{pmatrix}$ より

$$\begin{pmatrix} x-a_1 \\ y-a_2 \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$$

よって, 次の連立方程式が得られる

$$\begin{cases} x-a_1 = kv_1 \dots \text{①} \\ y-a_2 = kv_2 \dots \text{②} \end{cases}$$

$$\text{①より } \frac{x-a_1}{v_1} = k \quad \text{②より } \frac{y-a_2}{v_2} = k$$

従って, 結果の公式が導ける $\frac{x-a_1}{v_1} = \frac{y-a_2}{v_2} (=k)$ (2) 求める直線上の任意の点を $P(x, y)$ とすると直交条件より $\overrightarrow{AP} \perp \vec{n} \Rightarrow \overrightarrow{AP} \cdot \vec{n} = 0$ また $\overrightarrow{AP} = \vec{p} - \vec{a} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x-a_1 \\ y-a_2 \end{pmatrix}$ & $\vec{n} = \begin{pmatrix} n_1 \\ n_2 \end{pmatrix}$ より結果の公式が導ける $n_1(x-a_1) + n_2(y-a_2) = 0$ 

例題 2点 $A(-3, 5)$, $B(5, -1)$ について、次の問いに答えよ。

- (1) 直線 AB の方程式を求めよ。
- (2) 線分 AB の垂直二等分線の方程式を求めよ。

[解答] 各点の位置ベクトルは小文字で表す。

- (1) 求める直線の方法ベクトルは

$$\vec{v} = \overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a} = \begin{pmatrix} 5 \\ -1 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} -3 \\ 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8 \\ -6 \end{pmatrix}$$

[※方向ベクトルは、直線と重なっても大丈夫です。]

よって、点 A を通り、方向ベクトル \vec{v} の直線は

$$\begin{aligned} \frac{x+3}{8} &= \frac{y-5}{-6} &\Rightarrow & -6(x+3) = 8(y-5) \\ & && -6x-18 = 8y-40 \\ & && -6x-8y+22 = 0 &\quad \therefore 3x+4y-11=0 \end{aligned}$$

- (2) 求める垂直二等分線の法線ベクトルは、直線 AB の方向ベクトルなので

$$\vec{n} = \overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a} = \begin{pmatrix} 5 \\ -1 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} -3 \\ 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8 \\ -6 \end{pmatrix}$$

また、線分 AB の中点を M とすると

$$\vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} = \frac{1}{2} \left\{ \begin{pmatrix} -3 \\ 5 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 5 \\ -1 \end{pmatrix} \right\} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$$

よって、点 M を通り、法線ベクトル \vec{n} の直線は

$$\begin{aligned} 8(x-1) - 6(y-2) &= 0 \\ 8x - 8 - 6y + 12 &= 0 \\ 8x - 6y + 4 &= 0 &\quad \therefore 4x - 3y + 2 = 0 \end{aligned}$$

問 6.17 2点 $A(1, 3)$, $B(4, 5)$ について、次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{AB} の成分表示を求めよ。
- (2) 点 $C(2, -1)$ を通り、直線 AB に平行な直線の方程式を求めよ。
- (3) 点 $C(2, -1)$ を通り、直線 AB に垂直な直線の方程式を求めよ。

【注意】 方向(法線)ベクトルは、直線に平行(垂直)なベクトルなので
1つとは限りません。まず、大きさが自由に設定できます。
また、向きも逆向きも考えることができます。
特に、平行の場合は直線と重なることもあります。

【研究】特に表記しませんでしたでしたが、実は、方向ベクトル $\vec{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$ において

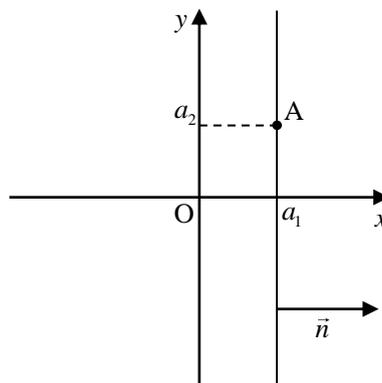
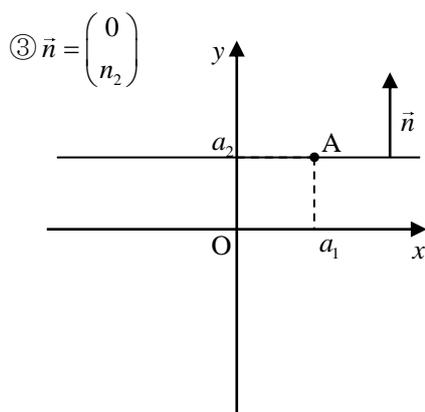
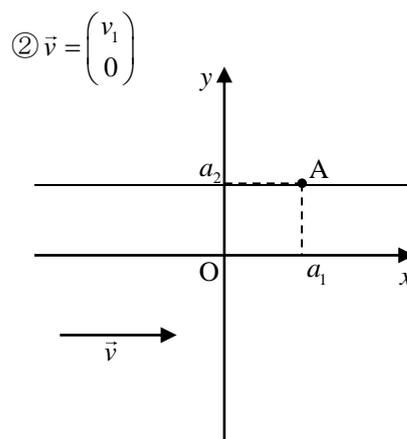
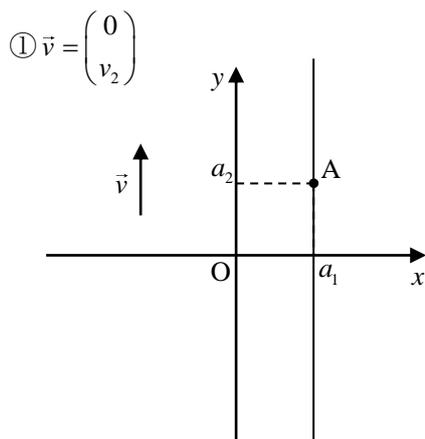
「 v_1, v_2 は共に 0 ではない」とするという但し書きが必要です。

法線ベクトルの $\vec{n} = \begin{pmatrix} n_1 \\ n_2 \end{pmatrix}$ の場合は、敢えて述べる必要ありませんが、

「 n_1, n_2 は共に 0 ではない」という条件をいれておきます。

点 $A(a_1, a_2)$ を通る直線を考える。

- | | | |
|-------------------------------|-----------|----------|
| ① $v_1 = 0$ の場合は、 y 軸に平行な直線 | $x = a_1$ | } 特殊なケース |
| ② $v_2 = 0$ の場合は、 x 軸に平行な直線 | $y = a_2$ | |
| ③ $n_1 = 0$ の場合は、 x 軸に平行な直線 | $y = a_2$ | |
| ④ $n_2 = 0$ の場合は、 y 軸に平行な直線 | $x = a_1$ | |



[※特殊なケースの場合は、図を描くことを推奨します]

5.3 円の方程式

円の方程式とは？

既に、皆さんは円の方程式が

$$[\text{円の方程式}] \quad (x-a_1)^2 + (y-a_2)^2 = r^2$$

により表されることを知っています。

このとき、円の中心が (a_1, a_2) となり、半径が $r (> 0)$ となります。

このことを、ベクトルで証明してみましょう。

円上の任意の点を $P(x, y)$ とします。円の中心を定点 $A(a_1, a_2)$ とし、半径を r とします。このとき、点 P が円のどの位置にあったとしても、必ず次の等式が成り立ちます。

$$\text{大きさ} \quad |\overline{AP}| = r \cdots \text{①}$$

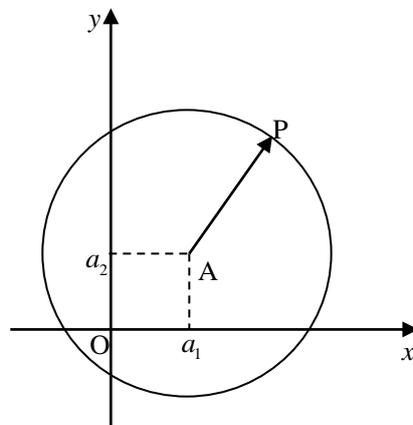
このとき、ベクトルに関する計算を行うと

$$\overline{AP} = \vec{p} - \vec{a} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x-a_1 \\ y-a_2 \end{pmatrix} \quad \text{より}$$

$$|\overline{AP}| = \sqrt{(x-a_1)^2 + (y-a_2)^2} \cdots \text{②}$$

$$\text{①と②より} \quad \sqrt{(x-a_1)^2 + (y-a_2)^2} = r$$

$$\therefore (x-a_1)^2 + (y-a_2)^2 = r^2$$



[円の方程式]

(1) 点 $A(a_1, a_2)$ を中心とする半径 r の円

$$(x-a_1)^2 + (y-a_2)^2 = r^2$$

(2) 2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ を直径の両端とする円の方程式

$$(x-a_1)(x-b_1) + (y-a_2)(y-b_2) = 0$$

証明) (2) 円上の任意の点を $P(x, y)$ とする。

線分 AB は円の直径だから $\angle APB = 90^\circ$

よって、直交条件より

$$\overrightarrow{AP} \perp \overrightarrow{BP} \Rightarrow \overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{BP} = 0 \cdots \textcircled{1}$$

ベクトルに関する計算を行うと

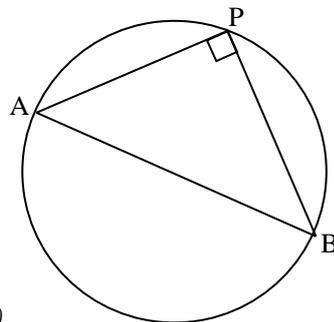
$$\overrightarrow{AP} = \vec{p} - \vec{a} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x - a_1 \\ y - a_2 \end{pmatrix}$$

$$\overrightarrow{BP} = \vec{p} - \vec{b} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x - b_1 \\ y - b_2 \end{pmatrix} \quad \text{より}$$

$$\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{BP} = (x - a_1)(x - b_1) + (y - a_2)(y - b_2) \cdots \textcircled{2}$$

従って、 $\textcircled{1}$ と $\textcircled{2}$ より結果が導ける

$$(x - a_1)(x - b_1) + (y - a_2)(y - b_2) = 0$$



例題 2点 $A(-3, 4)$, $B(5, -2)$ を直径の両端とする円を求めよ。

[解答] $(x+3)(x-5) + (y-4)(y+2) = 0$

$$x^2 - 2x - 15 + y^2 - 2y - 8 = 0$$

$$x^2 + y^2 - 2x - 2y - 23 = 0$$

$$(x-1)^2 - 1 + (y-1)^2 - 1 - 23 = 0$$

$$(x-1)^2 + (y-1)^2 = 25$$

(答) 中心 $(1, 1)$, 半径 5 の円

[復習] 平方完成: $x^2 + \boxed{2a}x = (x + \boxed{a})^2 - \underline{\underline{a^2}}$

①半分 ②2乗を引く

問 6.18 2点 $A(-5, 2)$, $B(3, -6)$ を直径の両端とする円を求めよ。

5.4 垂心

$\triangle ABC$ において

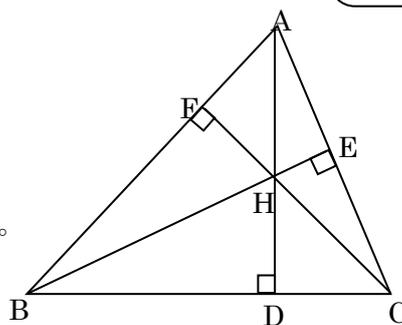
3つの頂点 A, B, C から対辺に降ろした
垂線の足をそれぞれ D, E, F とする。

このとき、

3本の垂線 AD, BE, CF は1点で交わる。

この交点 H を**垂心**という。

垂心とは？



例題 3点 $A(2, 6)$, $B(4, 2)$, $C(6, 4)$ を頂点とする垂心の座標を求めよ。

[解答] 各点の位置ベクトルは小文字で表す。

1) 点 A を通り, 直線 BC に垂直な直線(前頁図では直線 AD)

$$\text{法線ベクトル: } \overline{BC} = \vec{c} - \vec{b} = \begin{pmatrix} 6 \\ 4 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$\text{直線の方程式: } 2(x-2) + 2(y-6) = 0 \Rightarrow 2x + 2y - 16 = 0 \cdots \textcircled{1}$$

2) 点 B を通り, 直線 CA に垂直な直線(前頁図では直線 BE)

$$\text{法線ベクトル: } \overline{CA} = \vec{a} - \vec{c} = \begin{pmatrix} 2 \\ 6 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 6 \\ 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$\text{直線の方程式: } -4(x-4) + 2(y-2) = 0 \Rightarrow -4x + 2y + 12 = 0 \cdots \textcircled{2}$$

3) 垂心 H の座標

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{より } \begin{cases} x + y = 8 \\ -2x + y = -6 \end{cases} \quad \therefore x = \frac{14}{3}, y = \frac{10}{3} \quad (\text{答}) \text{H} \left(\frac{14}{3}, \frac{10}{3} \right)$$

$$\left[\begin{array}{l} \text{【復習: クラメル公式】} \\ \begin{cases} ax + by = p \\ cx + dy = q \end{cases} \text{ のとき} \\ x = \frac{\begin{vmatrix} p & b \\ q & d \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix}} = \frac{pd - bq}{ad - bc}, \quad y = \frac{\begin{vmatrix} a & p \\ c & q \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix}} = \frac{aq - pc}{ad - bc} \end{array} \right]$$

$$\text{※注意 } \overline{AB} = \vec{b} - \vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 2 \\ 6 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -4 \end{pmatrix}$$

$$\overline{CH} = \vec{h} - \vec{c} = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 14 \\ 10 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 6 \\ 4 \end{pmatrix} = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 14 \\ 10 \end{pmatrix} - \frac{1}{3} \begin{pmatrix} 18 \\ 12 \end{pmatrix} = \frac{1}{3} \begin{pmatrix} -4 \\ -2 \end{pmatrix}$$

$$\text{よって } \overline{AB} \cdot \overline{CH} = 2 \times \left(-\frac{4}{3} \right) - 4 \times \left(-\frac{2}{3} \right) = -\frac{8}{3} + \frac{8}{3} = 0$$

この結果は、 $\overline{AB} \perp \overline{CH}$ を導くので, 3本の垂線 AD , BE , CF が1点 H で交わることを意味している。

問 6.19 3点 $A(1, 3)$, $B(4, 5)$, $C(2, -1)$ について, 次の問いに答えよ。

(1) 点 A を通り, 直線 BC に垂直な直線の方程式を求めよ。

(2) 問 6.17(3)の結果も利用して, $\triangle ABC$ の垂心 H の座標を求めよ。